

# 母と子のにわ

—利用者みなさまと母子医療センターをつなぐ—



第22号

2009 Spring-Summer

## 目次:

総合診療情報システム (第5期システム)が新 しくなりました	1
パメラ・バーンズ女史 招聘セミナーを 開催しました	2
ことばいろいろ PICU	2
仕事紹介 診療情報管理士	3
「赤ちゃんにやさしい病 院」を目指しています	4
ユニバーサル・スタジオ・ ジャパン®から キャラクターが病棟訪問!	4
リニアック装置を 新設しました	5
セレッソ大阪の選手が 来院!	5
センターからの お知らせ	6



発行

地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター

## 総合診療情報システム（第5期システム）が新しくなりました

当センターでは、昭和56年の開所時より病院情報システムを導入し、診療業務をはじめとする病院業務に役立ててまいりました。それ以降、IT技術の目覚ましい発展とともに、カルテそのものをコンピュータで処理する時代へと変遷してきております。当センターでも今年9月に電子カルテがスタートしますが、それに先立ち5月のゴールドデンウィークに第5期システムの第1段階（フルオーダリング）が稼働を始めました。従来実施しておりました業務はもとより、外来受診の患者さんには予約情報に基づいて自動的に受付作業を行う再来受付機を新たに2台設置し、受付業務の流れを改善しております。



また、受付ではシステムで基本スケジュールというその日予定されている診察や検査を表示した用紙を作成、お渡しし、その日の診療の流れをご確認いただけるようになりました。

さらに、電子カルテ化に伴い、X線画像をすべてデジタル化し、外来診察室や病棟では従来のX線フィルムに代わってコンピュータ画面でその画像がスピーディに参照できるようになりました。外来診察室にはコンピュータ画面を2面用意し、一方に検査結果や画像情報を表示させながら他方で指示を出したり、ご説明したりと、患者さんにとりましてもより身近な診察の場となったのではないかと考えております。（ただ、医師の方でも新しいシステムの操作に熟練するには少し時間が必要で、コンピュータ画面ばかり見ている、というご指摘には申し訳なく思っています。）

ご紹介した事例はほんの一例にすぎませんが、これら以外にも、第5期システムは院内各部門のほとんどの職種の職員に利用されています。電子カルテになるということは、従来の紙に書いていたカルテのように保管庫に保管する手間や搬送する手間を省くことができ、経営的な効率化にもつながります。患者さんと医師の情報交換（共有）にも、患者さんと看護師の情報交換（共有）にも、医師が出す指示と関連部門の情報交換（共有）にも、病院が経営的に成り立つための請求業務への情報交換（共有）にも、その他あらゆる職種間の情報交換（共有）のための手段として、その間には第5期システム（電子カルテ）が存在していると考えられます。その意味で、今回の第5期システムは、患者さんを中心に当センターにかかわるすべての職員を結ぶ“絆”であると言えます。

（電子カルテプロジェクト 上田清治）

## 英国ホスピタル・プレイ・スペシャリスト制度の創始者 パメラ・バーンズ女史招聘セミナーを開催しました

「日本の病院の子どもたちの将来—英国におけるHPSの誕生、発展、制度化の経験に学ぶ—」と題し、



講師にパメラ・バーンズ女史をお招きして、セミナーを開催しました。

パメラ・バーンズ女史は、英国ホスピタル・プレイ・スペシャリスト (Hospital Play Specialist, HPS) の第一人者で、病院において子どもの環境改善が提唱され始めた1960年代から、HPSの理論の整備と制度の設計から普及へと子どもの人権の擁護に尽力されてきました。英国HPSの歴史から学ぼうと、会場には全国から120名ほどの参加者が集まりました。

セミナーでは、ホスピタル・プレイの成り立ち、その専門性の確立、またHPS国家資格としての公認を経て認証され、現在の英国でどのような役割を担っているかを幅広くお話しいただきました。大切なことは、子どもは、没頭できる遊びを通して、恐怖心を和らげ、自尊心を高め、病院環境に慣れることが可能になるということです。HPSには、それぞれの子どもの適した遊びを提供する知識、技術が求められてきました。ワークショップでは、参加者みずからもペットボトルやビーズを使ったアクティビティを行い、多くの方が、遊びの楽しさ、遊びの意味を再認識したと話されました。

また、日本の病院における関連職種の方々にもお越しいただき、小児看護学の教授、チャイルド・ライフ・スペシャリスト (北米においてHPS同様の役割を担う職種)、病院勤務の保育士、HPSJ養成の主宰者、HPS資格を有する小児科医師、小児専門病院の看護部長、それぞれの立場から、現状や問題点をお話しいただきました。

三日間にわたる長時間のセミナーでしたが、毎日のアンケート用紙には、HPSの役割の必要性を理解した、遊びの大切さを実感したといった声が、数多く寄せられました。

(ホスピタル・プレイ室 後藤眞千子  
上田 素子)



## ことばいろいろ 「PICU」

「PICU」はPediatric Intensive Care Unit (小児集中治療室) の頭文字からとった名称です。文字通り、重篤な子供を集中的に監視し、治療する場所です。対象となる子供たちは、心臓手術や新生児手術を含む大きな手術の術後、急性の心不全や呼吸不全、などです。この子供たちに人工呼吸を行ったり、適切な輸液を行ったり、血圧を調節する薬を使ったりして、一日でも早く元の元気な状態になってもらう手助けをします。そのために、主治医だけでなく、専門の知識や技術を持った医師や看護師、臨床工学士が昼夜を問わず交代で働いています。PICUは一般の患者さんにとってはほとんど縁のない場所ですが、実は子供たちの命の「最後の砦」なのです。

欧米からの報告では、重篤な子供たちをPICUで管理すると、子供たちが早く退院できたり、より多くの子供を救命できることが示されています。ですが、残念ながら日本ではまだ十分な数のPICUベッドがありません。このような現状を一刻も早く打破することも当院の重要な役割の一つだと思っています。(麻酔集中治療科 竹内宗之)



英国においては、医療機関の全ての職員が、子どもの心・人権に配慮すべきことが、保健省の基準に謳われており、その専門職種ホスピタル・プレイ・スペシャリストは国家資格に認定され、患児10人に1人の割合で配置すべきとされています。

しごとしょうかい しんりょうじょうほうかんりし

## 仕事紹介「診療情報管理士」

みな ぼし じゆしん  
皆さんが母子センターを受診するとお  
いしや  
医者さんは、「どこが痛い?」「いつか  
ら?」と質問して、いろいろなことを紙に  
か  
書いています。これをカルテと言います。  
カルテには、みな びょうき いまの  
カルテには、皆さんの病気のこと、今飲ん  
くすり  
でいるお薬のこと、これからの治療のこ  
となどが書かれています。診療情報管理士  
か しんりょうじょうほうかんりし  
は、病院の中の仲間(お医者さんや看護師  
びょうき なか なかま いしや かんごし  
さんやいろいろな技師さん)が患者さんの  
びょうき ちりょう かか  
病気のことをわかって治療に関われるよう  
に、カルテがきちんと書かれるようお手伝  
か わす とき  
いをします。カルテを書き忘れていた時に  
おし  
教えてあげたり、カルテをきれいに並べ  
つぎ びょういん き  
て、次にみなさんが病院に来たときにす  
と だ  
ぐに取り出せるようにしています。

ぼし びょういん とき  
母子センターには病院ができた時から  
ほかん  
のすべてのカルテが保管されています。  
むかし か のこ  
昔のカルテはデジタル化して残していま  
みな おとな とき こ  
す。皆さんが大人になった時に、子ども  
とき びょうき し  
時の病気のことを知りたくなってもちゃん  
のこ あんしん  
とカルテが残っているから安心してくださ  
い。

ひと しごと じょうほう かんり  
もう一つの仕事は、情報の管理です。  
いしや あたら ちりょうほうほう  
お医者さんは新しい治療方法について  
ほか びょういん いしや おし  
他の病院のお医者さんに教えてあげた  
むずか びょうき なお  
り、難しい病気が治せるようにいつも  
べんきょう とき やくだ  
勉強しています。その時にカルテが役立  
しんりょうじょうほうかんりし いしや  
ちます。診療情報管理士は、お医者さんが

べんきょう  
勉強す  
るときに  
すぐに  
ひつよう  
必要なカ  
と  
ルテが取  
だ  
り出せる  
ようにし  
ていま



す。そして、ねんかん かんじや  
1年間でどのくらいの患者さ  
がいらい き にゆういん  
んが外来に来たか、入院したか、どんな  
しゅじゅつ おこな とうけい つく  
手術を行ったかなどの統計を作って、  
ぼし びょういん すうじ  
母子センターがどんな病院なのかを数字で  
あらわ  
表したりしています。

しんりょうじょうほうかんりし ぜんこく にん  
診療情報管理士は、全国に17,000人いま  
さいきん ぜんこく びょういん じぶん びょういん  
す。最近、全国の病院では自分の病院が  
びょうき ちりょう とくい びょういん  
どんな病気の治療が得意なのか、病院の  
とくちょう すうじ あらわ かんじや こうかい  
特徴を数字で表して患者さんに公開して  
しんりょうじょうほうかんりし すうじ  
います。診療情報管理士は、そんな数字が  
せいかく だ ぜんこく かつやく  
正確に出せるように全国で活躍していま  
す。

わたし かんじや みな ちよくせつ あ  
私たちは、患者の皆さんに直接会うこ  
みな びょうき  
とはないですが、皆さんのカルテや病気の  
じょうほう たいせつ まも びょうき ちりょう  
情報を大切に守って、病気の治療がうまく  
かげ ささ  
いくように影で支えています。

(診療情報管理士 枝光 尚美)





### 母乳育児成功のための 10カ条

1. 母乳育児の方針を全ての医療に関わっている人に、常に知らせること
2. 全ての医療従事者に母乳育児をするために必要な知識と技術を教えること
3. 全ての妊婦に母乳育児の良い点とその方法をよく知らせること
4. 母親が分娩後、30分以内に母乳を飲ませられるように援助すること
5. 母親に授乳の指導を十分にし、もし、赤ちゃんから離れることがあっても母乳の分泌を維持する方法を教えること
6. 医学的な必要がないのに母乳以外のもの、水分、糖分、人工乳を与えないこと
7. 母子同室にする。赤ちゃんが母親が一日中24時間、一緒にいられるようにすること
8. 赤ちゃんが欲しがるときに、欲しがるとまの授乳を進めること
9. 母乳を飲んでいない赤ちゃんにゴムの乳首やおしゃぶりを与えないこと
10. 母乳育児のための支援グループ作りを援助し、退院する母親に、このようなグループを紹介すること



## 母子医療センターは「赤ちゃんにやさしい病院」を目指しています。

昨年、当センターでは『赤ちゃんにやさしい母乳育児支援推進委員会』を立ち上げました。全ての職員が、育児支援の一環として、最初の育児支援として、母乳育児を支援していきけるよう活動をすすめています。

ユニセフ・WHO（世界保健機構）が勧告した「母乳育児成功のための10か条」は、お母さんが赤ちゃんを母乳で育てられるように、産科施設とそこで働く職員が実行すべきことを具体的に示したものです。当センターは、この10か条を遵守・実践し、母乳で育てたいと願う母親の声に応え、母と子とその絆をじっくりと育むことが出来るように、援助させて頂きます。また、様々な理由で母乳育児が困難な場合にも、どのようなサポートができるかを考え、実践していきたいと思えます。

委員会では、以下の9つの小委員会にわかれて、様々な取り組みを行っています。

「産前教育」「分娩と生後早期のケア」「母性棟ケア」「新生児関連病棟ケア」「職員啓発」「継続的な母乳育児支援」「エモーショナルサポート」「授乳と薬検討」「自己評価」

次号から、連載で各小委員会の持ち回りでその活動をご紹介します。

## ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®からキャラクターが病棟訪問！

テーマパーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」の運営会社、株式会社ユー・エス・ジェイでは、会社とクルー（従業員）が主体となり社会貢献プロジェクト「USJドリームウィバーズ」（Dream Weavers：夢を紡ぐ人の意）を推進しています。その取り組みの1つとして、パークになかなか行くことができない小児病棟に入院している子どもたちをキャラクターやパフォーマーたちが訪問する「コミュニティ・プログラム」を実施しています。

8月4日（火）当センターにも、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンの人気キャラクター、ウッディー・ウッドペッカー™とウィニー・ウッドペッカー™が、病棟の子どもたちを訪問してくれました。

大好きなキャラクターの訪問に、みんな大喜び。満面の笑みで写真撮影やパフォーマンスを楽しみました。



## リニアック装置を新設しました

この動物たちは何だと思いませんか？実は、新しいリニアック装置（写真左）とCT装置（写真右）なんです。リニアックとは放射線治療を行う装置のことです。これらの装置を組み合わせることで、今まで他の施設にお願いしていたような、小さな病変や難しい場所にある病変の治療を当院で行えるようになります。放射線治療というのは何度も通っていただくことが多い治療です。子どもたちが楽しく通ってくれば、との想いを込めてこのようなデザインになりました。（放射線科 谷 正司）



## セレッソ大阪の選手が来院！



6月26日（金）Jリーグセレッソ大阪の江添選手、酒本選手、山下選手、白谷選手とイメージキャラクターのロビー君が当センター

4階東西病棟、5階東西病棟を訪問してくれました。

エレベーターホールで待ち伏せしている子、選手から離れない子、サインをしてもらうためスポーツバックを用意している子、ロビー君が怖くて泣いてしまう子もいましたが、どの病棟も選手が訪問すると、子どもたちや保護者の皆さんが集まってきて、選手を囲んで明るい輪が出来ていました。選手からプレゼントやサインをもらったり、一緒に写真をとってもらったりして、子どもたちは本当に嬉しそうでした。

セレッソの選手からも「入院中の子どもたちを励まそうと訪問したのですが、子どもたちの温かいまなざしと、ふれあいを通じて、逆に勇気もらったように思います。早く元気になって、セレッソ大阪の試合を見にいきたいと言っていた子どもたちのために、頑張らなくてはと気合が入りました。」というコメントを頂きました。

ご協力頂ける皆さんに感謝しつつ、入院中の子どもたちには楽しい思い出を少しでも作っ

てもらえたらと思います、今後もこのような訪問を積極的に受け入れていきたいと思っています。



